

巻頭言

「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度化の問題点について」

岡山学院大学学長
岡山短期大学学長
岡山学院大学・岡山短期大学同窓会名誉会長
原田博史

同窓生の皆様におかれましては益々ご活躍のこととお喜び申し上げます。

平素は、母校の発展のためにご支援ご協力を賜り誠に有り難く厚くお礼申し上げます。

さて、今回は、今進行中のホットな（心配な？）ニュース、「実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関（以下、「新たな高等教育機関」とする）の制度化」について述べたいと思います。ただし、文部科学省での有識者による審議は現在進行中であり、どのような方向転換があるか分かりませんが、政府の教育再生実行会議の第5次提言を受けての事ですので、既定路線を推し進めるためのような会議のようでもあることをまずもって申し上げておきます。

さて、この第5次提言とは、昨年の7月に報告されたもので、本当にホットであります。その中に「新たな高等教育機関」を制度化することが提案されたのです。このことは、遡ること平成23年1月の中教審答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」で、職業教育の重要性を踏まえた高等教育を展開していくことが必要と指摘されたことを受けてのことであり、今回の第5次提言では、「大学や短期大学は、学術研究を基にした教育を基本とし、企業等と連携した実践的な職業教育を行うことに特化した仕組みにはなっていない」、「高等専門学校は、中学校卒業後からの5年一貫教育を行うことを特色とするものであり、高等学校卒業段階の若者や社会人に対する職業教育には十分に対応していない」、「専修学校専門課程（専門学校）は、教育の質が制度上担保されていないこともあり、必ずしも適切な社会的評価を得られていない」と、今の高等学校を卒業した後に通う高等教育機関では、職業教育が不十分であるとの理由で、「新たな高等教育機関」の制度化を求めた内容になっております。つまり、大学・短期大学及び高等専門学校は、学校教育法第1条に規定される高等教育機関であります。必ずしも職業教育に対応できていないとの指摘かと思われ。しかしながら第1条校ではない専門学校の指摘では、制度的であるが教育の質の保証がなく、社会的な評価もないということが述べられており、第1条校である大学・短期大学及び高等専門学校と同等の高等教育機関として並列される内容ではありません。つまり専門学校には、大学・短期大学のような文部科学省による事前規制や文部科学大臣が認証した認証評価機関による認証評価（第3者評価）の制度がないことから教育の質保証が確保されていないということです。

さて、今進行している「新たな高等教育機関」の制度化を審議している有識者会議では、この専門学校を、この大学・短期大学のような事前規制と事後チェックという厳しい仕組みではなく、我が国の高等教育の水準を低下させるような別の法制度で、大学・短期大学と同じ第1条校にしようという仕組みを模索しているように思えてなりません。有識者会議は、昨年10月から文部科学省において進められております。会議では、「新たな高等教育機関」は、先導的試行として昨年4月から制度化された専門学校の職業実践専門課程であると説明されました。このことは会議の回が重ねられてくると「専門学校のためではなく、まったく新しい高等教育機関を考えている」との説明が変わってきておりますが、職業実践専門課程の文部科学大臣の認定が増加している現状では真偽は定かではありません。

では、専門学校の職業実践専門課程とは何であるか。職業実践専門課程の文部科学大臣の認定要件は、

1. 修業年限が2年以上であること。
2. 専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。
3. 企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習の授業を行っていること。
4. 総授業時数が1,700単位時間以上又は総単位数が62単位以上であること。
5. 企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。
6. 学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。
7. 前号の評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。
8. 企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。

都道府県が申請を受けて、1から8項の要件を知事が認めて文科大臣に認定を進達すれば、文科大臣がそれを受けて認定するというのも簡単な仕組みとなっております。

「企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携」を必須事項として認定要件に明記されているのでありますが、連携を図る企業等の公教育を担う責任に対する認定要件が含まれていません。教育課程について企業等と密接かつ組織的な連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行うとしても、営利を求める企業の影響が公教育を損ねることになりかねません。

「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表すること」とありますが、評価を行うに当たっては、企業等の役員又は職員を参画させ、企業等に対し、教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していることとなっていますが、企業等はステークホルダー（利害関係者）であり第三者性を保証するものではありません。また、評価そのものは学校教育法施行規則に規定する小学校の学校評価に準ずるものであることから、私たち大学・短期大学の認証評価のような厳しい内容ではなく、また財務情報の開示や教育情報の公表に関する事項もないことから高等教育機関としての教育を質保証するものではありません。

「教員に必要な専攻分野における実務に関する知識、技術及び技能並びに、指導力の修得・向上を目的として、企業等との連携の下、研修を組織的に行っていること」として、企業等との連携を通じた実践的な職業教育を実施する上で、最新の知識、技術及び技能並びに、授業及び学生に対する指導力等の修得・向上のための組織的に位置づけられた研修の状況を確認する事項の中で、履歴書、実務経歴書、最新の知識、技術及び技能並びに、授業及び学生に対する指導力の証明書、実務卓越性などを書類により資格審査する制度がなくこれも第三者性が確保されていません。

今や、有識者会議の審議内容では、学校教育法第1条に規定する学校種とし、専門大学や専門短期大学などの仮称や学位授与機関とするなどの意見が既定の路線となってきております。しかしながらその内容は現在の専門学校の職業実践専門課程を無理やり大学にしようとするもので、我が国の高等教育の国際通用性が損なわれるという一大危機に遭遇しているかのようであります。私は、せめて我が国の大学・短期大学の国際通用性が一層増大する制度化を期待しております。

おわりに、第5次提言では、大学や短期大学は、学術研究を基にした教育を基本とし、企業等と連携した実践的な職業教育を行うことに特化した仕組みにはなっていないと言われておりますが、大学・短期大学は、その人材養成においても教育課程の中で臨地実習などを通して、実習先の事業所・団体と綿密な連携を図り、実習における成績評価においても実習先の有資格者による評価を取得し、学内評価と併せて厳正な成績評価を行っていることから、学術研究を基にした教育を基本とし、企業等と連携した実践的な職業教育を行うことに特化した仕組みになっている旨を表明しておきます。

同窓会総会のお知らせ

第61回同窓会総会は、来る平成27年7月12日(日)の午前11時から倉敷国際ホテルにおいて開催されます。今年は「7」がつく年の卒業生の方々（準備会）が当番です。お友達お誘いあわせの上、是非ご参加くださいませようお知らせいたします。 第61回同窓会総会準備会

平成26年度 同窓会役員

敬称略

名誉会長	岡山学院大学学長 岡山短期大学学長		原 田 博 史
会 長	昭 和 42 年	保	中 塚 志 津 子
副 会 長	昭 和 41 年	保	森 上 敏 子
	昭 和 42 年	栄	岡 本 喜 久 子
常務理事	平 成 21 年	食	柴 野 暢 介
	平 成 24 年	食	上 野 茜
理 事	昭 和 58 年	幼	平 松 弘 子
	昭 和 58 年	幼	船 岳 理 恵
	昭 和 62 年	幼	高 岸 益 子
	平 成 7 年	幼	中 務 衣 都 子
	平 成 14 年	食	秋 田 文 恵
	平 成 18 年	食	山 口 泰 明
監 事	昭 和 44 年	食	井 頭 久 子
	昭 和 52 年	幼	西 早 苗
	平 成 15 年	幼	木 村 太 郎

本部便り

平成26年度 第1回理事会（平成26年5月31日）

- 平成25年度事業報告並びに収支決算報告が行われた。
- 平成25年度収支決算について「適正な処理がなされていた」と監査報告があった。
- 役員改選が行われた。

- 平成26年度事業計画及び予算について事務局より案が出され、協議の上決定された。
- 前回の総会の反省点を踏まえ、第60回同窓会総会・懇親会の案内状・振込用紙等が作成された。
- 3年に1度の会員現況調査実施の年にあたるため、総会の案内状に同封する文書及び調査票が作成された。

平成26年度 第2回理事会（平成26年7月5日）

- 第60回同窓会総会・懇親会の役割が協議決定した。
- 総会次第及び総会の準備を行った。

平成26年度 第3回理事会（平成26年12月6日）

- 第60回同窓会総会・懇親会の報告及び決算について結果報告があり、その後次回に向けての反省が行われた。
- 第61回同窓会総会・懇親会の開催場所及び日程について協議され、平成27年7月12日(日)に倉敷国際ホテルにて開催することが決定した。
- ホームカミングデー（大学主催）が平成26年10月26日(日)に行われ、同窓会も平成21年から23年3月卒の同窓会員に案内状の発送協力をしたと報告があった。
- 岡山学院大学岡山短期大学同窓会栄養士会より、平成27年2月8日(日)に行われる「第1回岡山学院大学岡山短期大学同窓会栄養士会」の準備状況について報告があった。
- 岡山学院大学岡山短期大学同窓会保育学会を設立する事となった。

第60回同窓会総会記録

平成26年7月13日(日)11時、原田博史学長をはじめ、他13名の先生方のご出席をいただき、倉敷国際ホテル（桜花の間）において、総会が開催された。



【第60回 同窓会総会】

1. 開 会 司会：平松弘子理事
2. 会長挨拶 中塚志津子同窓会長
3. 名誉会長挨拶 原田博史学長
4. 来賓紹介 平松弘子理事より来賓紹介
5. 来賓挨拶 久保豊子先生
6. 物故者追悼（黙祷）
7. 役員紹介 役員自己紹介
8. 議長選出 蔦谷直美氏（平成21年食）
9. 議 事
 - (1)平成25年度事業報告並びに決算報告
柴野暢介常務理事、上野茜常務理事
 - ・理事会…年3回（平成25年5月、6月、12月）の開催
 - ・準備会…平成25年6月、平成26年3月開催
 - ・第59回同窓会総会・懇親会の開催
（平成25年7月7日(日) 倉敷国際ホテル桜花の間）
 - ・同期会への補助
昭和55年（幼児教育学科）
平成25年（食物栄養学科、幼児教育学科）
 - ・同窓会報第36号発刊（平成26年3月）
 - ・ITリテラシー教育のための拠金（継続）
 - ・ホームカミングデー（大学主催）に協力
 - ・平成25年度収支決算書（別表）を報告
 - (2)監査報告 木村太郎監事
「厳正なる監査を行ったところ適正なる処理ができていた」と報告された。
 - (3)平成26年度事業計画案並びに予算案
柴野暢介常務理事、上野茜常務理事
 - ・理事会…年3回
（平成26年5月、7月開催、12月開催予定）
 - ・準備会…平成26年6月開催
（第60回同窓会総会第2回準備会）
平成27年2月開催予定
（第61回同窓会総会第1回準備会）
 - ・第60回同窓会総会・懇親会の開催
（平成26年7月13日(日)）
 - ・同期会への補助
 - ・同窓会報第37号発刊（平成27年3月）

- ・ITリテラシー教育のための拠金（継続）
 - ・ホームカミングデー（大学主催）に協力
 - ・第1回同窓会栄養士会の開催
（平成27年2月8日 本学情報センターD302室）
 - ・会員現況調査
 - ・平成26年度の予算案について、全員異議なく了承された。
10. 同窓会栄養士会設立について
岡本喜久子副会長（同窓会栄養士会会長）
原田俊孝総務課長
 11. ホームカミングデーのご案内 北條由貴企画担当
 12. 閉 会 森上敏子副会長

【同窓会懇親会】

平成26年度同窓会総会及び懇親会は卒業年に「6」がつく年の同窓会総会準備会の運営で開催されました。14名の先生方と41名の卒業生が一同に集い、平成26年3月に岡山短期大学幼児教育学科を卒業した小原優香さん、田中那美さん、森本絵梨佳さんの司会進行で懇親会は始まりました。

高津友紀奈（H26.3幼）さんの開会挨拶後、宮崎正博先生に乾杯をしていただき、皆様にぎやかに食事が始まりました。懐かしい同級生や来賓の先生方としばらく会話を楽しみました。余興は原田博史学長先生のカラオケ<テイクミーホームカントリーロード>から始まりました。続いて田尻朱美（H16.3幼）さん、濱武真実（H16.3幼）さんから近況報告がなされ、お二人のお子様から一発芸が披露されました。その後、平成26年3月幼児教育学科卒業生、小原優香さん、田中那美さん、森本絵梨佳さんによる手遊びの披露があり皆様も手を動かし楽しめました。その後、少しの歓談をした後2部の余興がスタートしました。浦上博文先生によるカラオケ<青春時代>が歌われ、会場が盛り上がりました。その後、小川幸恵（S46.3幼）さんから近況報告をしていただき、貴重なお話しに皆様聞き入られました。最後に卒業年に「6」がつく当番年の参加者全員が舞台上がり、白神先生の伴奏で毎年恒例になっている<旧校歌><旧学生歌><大学校歌><短大学歌>を大合唱しました。そして川上麻耶（H24.3食）さんの閉会挨拶により、第60回同窓会

総会及び懇親会は無事終了いたしました。

第60回同窓会総会及び懇親会も倉敷国際ホテル桜花の間にてバイキング形式の自由席で開催いたしました。おいしい料理を囲み、同級生や、恩師の先生方と自由に懐かしい思い出話に花をさかされていました。卒業アルバムを持参された方もいらっしゃり、より一層学生時代を懐かしむことが出来たようです。まだ同窓会総会・懇親会に参加されたことがない皆様、久しく参加されていない皆様、毎回楽しく会を開いておりますのでぜひ参加してください。お待ちしております。

ご出席いただきました先生方は、原田博史学長、久保豊子先生、宮崎正博教授、竹原良記教授、浦上博文教授、白神厚子教授、福井晴子教授、尾崎聡教授、藤井真理准教授、楠本恭之准教授、妹尾良子講師、中原真由美講師、藤澤克彦講師、原田俊孝総務課長でした。ご参加ありがとうございました。次回もまたご参加いただき、同窓生と楽しい一時を過ごしていただければと思います。



第60回総会会長挨拶



第60回懇親会余興



第60回懇親会席

岡山学院大学・岡山短期大学同窓会栄養士会

平成27年2月8日13時「本学を卒業した管理栄養士・栄養士そして食物栄養学科の在学生及び教員をまじえ栄養に関する科学と技術の情報を共有し、さらには卒業生、在学生、教員の親睦を図るとともに、母校の発展に寄与する」ことを目的として設立した岡山学院大学・岡山短期大学同窓会栄養士会の第1回同窓会栄養士会研究大会及び懇親会が開催された。原田博史学長先生、中塚志津子同窓会会長、森上敏子同窓会副会長の3名のご来臨を賜り、岡山学院大学人間生活学部食物栄養学科の教職員17名、同窓生10名、学生84名の計114名が参加した。

【研究大会】

【発表題目及び発表者】

○「医療・福祉」関連

1. 私の健康管理センターでの役割<管理栄養士として>
土居純子（昭和47年3月食物栄養学科卒業）
2. 介護保健施設における多職種協働の取り組みについて
多賀野浩美（昭和63年3月食物栄養学科卒業）
3. 特別養護老人ホーム あすなる園での業務について
渡邊紀枝（平成19年3月食物栄養学科卒業）
4. 管理栄養士として働いて
葛岡麻美（平成10年3月食物栄養学科卒業）
5. 介護療養型医療施設における経口移行への取り組み
大羽雅美（平成21年3月食物栄養学科卒業）
6. 回復期リハビリテーション病棟における多職種との連携を通じ栄養状態が改善した一例
川人理恵子（平成20年3月食物栄養学科卒業）

○「学校・保育」関連

1. 保育所での業務とアレルギー対策について
渡邊菜月（平成24年3月食物栄養学科卒業）
2. 栄養指導に活かす基本的なカウンセリング技法
井頭久子（昭和44年3月食物栄養学科）
3. 助手業務(実験・実習等)からの学生支援について
田中良和（平成19年3月食物栄養学科卒業）
上野 茜（平成24年3月食物栄養学科卒業）
北條由貴（平成25年3月食物栄養学科卒業）
塚本明子（平成24年3月食物栄養学科卒業）
4. 大学事務職員からの学生支援について
薦谷直美（平成21年3月卒業）
川上麻耶（平成24年3月卒業）

【同窓会栄養士会懇親会】

第1回同窓会栄養士会懇親会は研究大会の終了後、17時から本学学生食堂で開催されました。原田博史学長先生から開会の挨拶をいただいた後、中塚志津子同窓会長ご発声の乾杯で、懇親会は始まりました。歓談中は管理栄養士として現場で活躍されている先輩方と直接お話ができる機会に学生、教職員ともに質問をさせていただきました。歓談の後、同窓生の自己紹介が行われ、卒業年や現在の職業について紹介いただきました。その後少しの歓談を挟み、各学年代表者1年生広江来韻さん、2年生入沢ゆい乃さん、3年生桐原美沙さんが先輩方に「これから管理栄養士を目指す勉強をする励みになった」

「進路を決定する上で大変参考になった」等の感謝の気持ちを述べました。そして、参加者全員で岡山学院大学校歌を斉唱しました。そして岡本喜久子同窓会栄養士会長の閉会の挨拶により、第1回同窓会栄養士会懇親会は無事終了いたしました。

研究大会で発表して下さいました同窓生の皆様ありがとうございました。これから本会は継続して研究大会を開催してまいりますので、管理栄養士、栄養士としてご活躍の同窓生皆様の成果発表、ご参加をお待ちしております。



栄養士会発表



栄養士会長総評



栄養士会懇親会席

管理栄養士国家試験 21名合格、合格率91.3%

第28回管理栄養士国家試験(平成26年3月23日実施)の合格者が平成26年5月9日に発表され、平成26年3月卒業生の中から21名が合格しました。合格率は91.3%でした。

このような成績を残すことができたのも学生・教員一体で日夜取り組んだ管理栄養士国家試験対策ゼミ(国試対策ゼミ)での真剣な取り組みが実を結んだ成果であるといえます。4年生は4月から毎日、授業配当のない時間は全て、国試対策ゼミの教室で勉強に取り組むことになっており、教室では教員による補習授業が繰り返し行われ、自習も教員が交代で常にそばについて支援しています。また国試対策模擬実力試験を年に10回行い、試験後は教員による解説があり、出題された問題を繰り返し復習します。試験問題は5択問題が200問ですので、すなわち1,000の問題文を全て正文に直して覚えるという作業を繰り返しているとのこと。

今春卒業する学生も春から1年間にわたって同様な取り組みをしてきております。夜、校舎を見上げると国試対策ゼミ室は夜7時を過ぎても明かりが点いており、遅くまで学校に残って勉強する姿が見られます。こうした努力を続けると模擬実力試験の成績も右上がりになっていき、秋頃には全国1割以内の成績をあげるようになっていくとのこと。

同窓生の皆様におかれましては、管理栄養士国家試験を目指す後輩たちへ今後より一層の声援をお願いいたします。

フードスペシャリスト資格 一般30名合格、専門12名合格(全国表彰2名)

公益社団法人日本フードスペシャリスト協会によるフードスペシャリスト資格認定試験(平成26年12月14日実施)の合格者が発表され、食物栄養学科4年生が30名合格しました。本年度からは従来のフードスペシャリスト資格に加えて、専門フードスペシャリスト(食品開発)資格と専門フードスペシャリスト(食品流通・サービス)資格が加わり、本学からは専門フードスペシャリスト(食品開発)資格に12名が合格しました。しかも山本志保さん、乃村明日香さんの2名が高得点により優秀者表彰を受けたことをお知らせいたします。

フードスペシャリスト資格は、従来どおり食に関する総合的・体系的な知識・技術を基本的に身につけている方に与える資格ですが、専門フードスペシャリスト資格はフードスペシャリスト資格を取得済み又は取得見込みの者がチャレンジする専門性や実用性をより高めた資格で、試験では「食品開発」「食品流通・サービス」のいずれかを選択するものです。このたび資格を取得した卒業生が専門性を駆使して食品の開発製造から流通、販売、外食、消費に至る分野まで広範な範囲で活躍していくことが期待されます。

人間生活学部 食物栄養学科 卒業研究発表会

平成26年8月5日(火)、食物栄養学科「卒業研究I」の発表会が行われた。内容は以下の通りである。

【発表題目及び発表者】

「日本人乳がん患者の発症リスクに関わる遺伝子多型頻度の年齢差」

明坂和香

「日本人の1塩基多型(SNP)遺伝子型分布の男女差」

伊藤友里恵

(研究指導：清水憲二教授)

「和食の栄養価について」 川上礼華
「和食と地域の食材について」 栗山久留美
「日本文化としての和食について」 芝田美波
「和食と長寿の関係」 中野亜美
「和食のおもてなしについて」 原野桃子
「おいしさを高める和食の味付けについて」 脇坂友里香
(研究指導：妹尾良子講師)

「食事調査の精度や利便性について考える」24時間思い出し法における重量誤差が大きい食品について」 尾崎麻子
「食事調査の精度や利便性について考える」食事摂取量の測定誤差によるエネルギー・栄養素の誤差について」 田村瑠璃
「食事調査の精度や利便性について考える」写真記録法、24時間思い出し法で推定できなかった食品について」 三木彩香
「食事調査の精度や利便性について考える」エネルギー摂取量と各栄養素の誤差の比較について」 山本志保
(研究指導：高槻悦子講師)

「炭水化物を後に食べた時の血糖値の変化」 新城由夏
「うつとアンチエイジング」 藤岡知東
「アボガドのアンチエイジング効果」 山中恵理
(研究指導：竹原良記教授)

「しじみを使用した献立の研究(調査研究及び調理実習)」 青戸 彩
「ぶりを使用した献立の研究(調査研究及び調理実習)」 城戸奏美
「ブロッコリーを使用した献立の研究(調査研究及び調理実習)」 土屋咲苗
「ひじきを使用した献立の研究(調査研究及び調理実習)」 乃村明日香
「ピーマンを使用した献立の研究(調査研究及び調理実習)」 花岡久美子
「おからを使用した献立の研究(調査研究及び調理実習)」 原 智美
(研究指導：中原真由美講師)

「行動変容の実践が他者への教育内容に与える影響」 五十嵐豊
「行動変容の実践が他者への教育内容に与える影響」 公下直人
「行動変容の実践が他者への教育内容に与える影響」 藤井八雲
(研究指導：藤澤克彦講師)

「肥満と褐色脂肪細胞」 一安佳織
「肥満と肥満遺伝子について」 岩井理奈
「肥満と遺伝の関係とその予防」 岡本佳奈
「褐色脂肪細胞による肥満予防 —ES細胞から褐色脂肪細胞へ—」 沖永美恵
「褐色脂肪細胞による肥満防止 —iPS細胞から褐色脂肪細胞を作る—」 金築美沙子
「肥満と遺伝について」 竹口佳菜
「褐色脂肪細胞と運動による肥満予防」 田中裕子
(研究指導：宮崎正博教授)

幼児教育学科 子どもといっしょに発表会

平成26年12月5日(金)、本学体育館において「子どもといっしょに発表会」が開催された。倉敷市内の幼稚園、保育所、施設などから多数の子どもたちを招き、一般の参加者も増え、賑やかな会となった。プログラムは以下の通りである。

〔プログラム〕

○発表

《吹奏楽演奏》

研究指導：平松泰一講師

1. 君をのせて
2. アンパンマンのマーチ
3. 夢をかなえてドラえもん

《合唱》

研究指導：畑田弘美講師

1. 「ピノキオ」より 星に願いを
2. 星の大地に
3. 「アニー」より トゥモロー

《オペレッタ》

研究指導：藤井真理准教授

おおきなかぶ

《大型紙芝居・ペープサート》

研究指導：浦上とし子講師

おいしいとびらをとんとんとん
3びきのやぎのがらがらどん

《ダンス》

研究指導：藤井真理准教授

ようかい体操第一

《オペレッタ》

研究指導：藤井真理准教授

7ひきのねこ

○遊びの広場

《手作り遊具コーナー》

研究指導：福井晴子教授

わくわくどうぶつえん、雪だるまつくろ、コロコロタイム、ウエルカムボード、のぞいてみよう、冬のきんぎょすくい、おりがみ教室、お土産制作

《読み聞かせコーナー》

研究指導：浦上とし子講師

大型絵本の読み聞かせ、紙芝居の実演、ペープサート



【ダンス】ようかい体操に会場総立ちとなる



【手作り遊具】妖怪ウォッチのスマートボールが大人気



【幕間】野菜のパネルクイズに良い反応が返る

「さんびきのくま」、パネルシアター
《身近な環境を楽しもうコーナー》

研究指導：山口雪子准教授
むしをキャッチ、バードブーメラン、ゴミの分別、動物たちの好きな食べものはなーんだ?、リサイクルシーソー

幼児教育学科 卒業研究発表

平成27年1月14日(木)、本学情報処理教育センターのD302教室において卒業研究発表会が行われた。内容は以下の通りである。

【発表題目及び発表者】

【環境】 (研究指導：山口雪子准教授)
「幼児を対象とした環境教育に関する試み ～身近な環境を題材とした遊びの計画と実践～」
立川 茜 川崎 栞 坪井香代子 福寄菜月
別所真子 中島祐希 中山聖菜 横山晴美 浅原優奈
栗田莉央 島崎友美 砂廣彩花 瀬島芽衣 常盛晃帆
長尾美佑

【児童文化】 (研究指導：尾崎 聡教授)
「子どもの好きなキャラクターについて ～妖怪ウォッチブームに思う～」
赤澤佳寿美 鬼塚敦子 真壁茉那 増成実希
和田夢子

【表現】 (研究指導：藤井真理准教授)
「卒業研究「表現」を通して得られた学習成果 ～PDCAサイクルに基づいて～」
奥藤 綾 田邊拓麻 福田賢也 藤井 光

【子ども研究】Ⅰ (研究指導：楠本恭之准教授)
「保育施設における動物介在教育」
庄田明珠華 原田穂乃花
「幼少期における人間関係がパーソナリティ形成に及ぼす影響」
竹田和幸

【子ども研究】Ⅱ (研究指導：楠本恭之准教授)
「物を集めること」
藤井美里
「道具本来の使用目的と異なる遊び」
瀧川尚平

【国際理解教育】 (研究指導：濱田佐保子教授)
「英語活動 ～保育の現場での実践～」
坂根有紀 田名後滯 野津里奈

【絵本・紙芝居研究】 (研究指導：浦上とし子講師)
「絵本・紙芝居を中心とした「おはなし」の実践と成果」
魚谷優里菜 岡田 航 小笠原大輝 菅重香織
神田 葵 田村 翼 牟田将人

【吹奏楽】 (研究指導：平松泰一講師)
「器楽での生きた音楽を体感し、幼児の感性や表現力を喚起するための研究」
小林莉菜 田邊 舞 中村真衣 松本聖菜
村上あゆみ 守屋裕美 矢田貝理佳 山室志歩

【情報文化】 (研究指導：張秉煥准教授)
「保育現場での情報技術活用～デジタル絵本の事例～」
緒方朋美 小林謙介 木曾愛菜 山岡愛梨

【コーラス】 (研究指導：畑田弘美講師)
「歌詞の内容を伝えるための歌唱練習と協調から得た学びを検証する」
近藤春奈 番匠 泉 福島真子 藤井志帆 本藤万依
吉長遥南 米田夏奈子

【言葉の指導】 (研究指導：浦上博文教授)
「言葉あそびの実践の工夫 ～保育所実習・幼稚園教育実習の実践から～」
天野愛理 安藤永莉 高橋のぞみ 貞岡えりか
堀 淳美

【造形】 (研究指導：福井晴子教授)
「子どもといっしょに発表会を通しての学び2015」
岡田理沙 池上英理 石岡夏実 金高英莉 神原千暖
杉原はしの 中祖未央 土居香織 二本森真衣
山本逸美 佐藤彩音 実重あかり 長山百恵
林千恵子 藤尾有紀

【臨床心理】Ⅰ (研究指導：今野仁博助教)
「キラキラネームが生まれた要因について」
藤原美咲 中本真衣
「時代変化から見たアニメの内容分析と考察」
濱田朱音

【臨床心理】Ⅱ (研究指導：今野仁博助教)
「色彩が子どもの心に与える影響についての一考察」
田中航平
「子どもの犯罪心理と家庭環境の関連についての一考察」
高橋愛奈 藤澤亜美

『同窓会50年の歩み』記念誌のご案内

なつかしい学生時代の様子や校舎の写真が詰まった同窓会50周年記念誌(平成15年10月発行)はいかがですか?

- 販売期間：在庫の限り(申込順に販売)
- 価 格：800円(記念誌¥500+送料¥300)
- 申込方法：郵便振替(郵便局にてお振込みください)



口座番号：01220-5-4076
加入者名：岡山学院大学岡山短期大学
同窓会

通 信 欄：「同窓会50年の歩み購入、ご住所、お名前、電話番号」
をご記入ください。

※領収書は大切に保管ください

【お問い合わせ先】

岡山学院大学岡山短期大学同窓会事務局
〒710-8511 岡山県倉敷市有城787

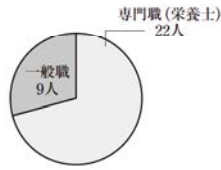
(Tel：(086) 428-2651)

平成26年3月卒業生就職状況

岡山学院大学

食物栄養学科

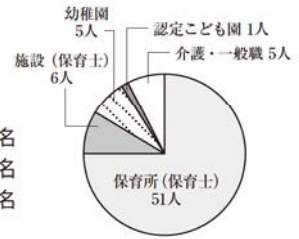
卒業生数 39名
就職希望者数 31名
専門職(栄養士) 22名
一般職 9名



岡山短期大学

幼児教育学科

卒業生数 82名
就職希望者数 68名
保育所(保育士) 51名
施設(保育士) 6名
幼稚園 5名
認定こども園 1名
介護・一般職 5名



岡山学院大学・岡山短期大学 ITリテラシー教育のための拠金者一覧

(平成26年1月~12月の拠金者)

卒業年・学科	氏名	(旧姓)
S29	三宅寿恵	(片岡)
S31	中畑正子	(加村)
S32	岡田登代子	(影山)
S34	寺田良江	(古川)
S38	堂元千代子	(森)
S39	岩田典子	(藤井)
S40	佐藤光江	(小畑)
S40	池田丘子	(吉田)
S40	弓場則子	(岡野)
S40	都知木季子	(渡辺)
S41	青野八重	(佐伯)
S41	森上敏子	(岡野)
S41	森藤静穂	
S42	梅木絹枝	(金澤)
S44	信藤直美	(林原)
S44	酒井早苗	(泉)
S44	佐藤啓子	
S46	西野恵子	(山本)
S50	藤井美保子	(菅原)
S50	竹本晴子	
S56	岸本浩子	(梶本)
S58	難波佳代	(貞利)
S58	平松弘子	(三浦)
S61	砂田八重	
S63	高岸益子	(野瀬田)
H23	川井智絵	

拠金内訳	
10,000円×2名	20,000円
5,000円×23名	115,000円
3,000円×1名	3,000円
合計	138,000円

岡山学院大学・岡山短期大学 ITリテラシー教育のための拠金の御礼 および拠金継続について

母校のITリテラシー教育の益々の発展を支援するため、一千万円を目標に拠金を継続してまいりました。下記の通り、多数の方々のご協力を得ましたこと、発起人一同心より御礼申し上げます。

しかし、下記のように未だ目標額には遠く及びません。拠金は、継続して積み立てることになっておりますので、今後も皆様の温かいご支援をいただき目標額を達成するべく、拠金の受付をいたしますので、何とぞご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、平成19年度に、第1回目の贈呈(図書館ノートPC12台<300万円>)を行っています。

拠金総額

年度	拠金額	振込手数料	累計
平成14・15年度	1,927,624円	16,220円	1,911,404円
平成16年度	590,000円	4,420円	2,496,984円
平成17年度	363,000円	4,430円	2,855,554円
平成18年度	280,000円	3,930円	3,131,624円
平成19年度	335,000円	4,920円	3,461,704円
平成20年度	287,000円	5,360円	3,743,344円
平成21年度	202,000円	0円	3,945,344円
平成22年度	215,000円	0円	4,160,344円
平成23年度	210,000円	0円	4,370,344円
平成24年度	1,190,000円	0円	5,560,344円
平成25年度	133,000円	0円	5,693,344円
平成26年12月末現在	138,000円	0円	5,831,344円
合計			5,831,344円

※平成21年度より拠金にかかる振込手数料は、決算書の支出科目に手数料支出を設けそちらで管理することとなりました。

拠金発起人一同

平成25年度 収支決算書

(平成25年4月1日~平成26年3月31日)

収入の部		支出の部	
科目	金額(円)	科目	金額(円)
繰越金	14,690,036	会議費	354,645
新入会員会費	1,770,000	交通費	165,000
総会費	215,000	印刷費	877,227
50年の歩み冊子収入	8,500	通信費	923,436
拠金収入	128,000	慶弔費	40,000
雑収入	5,161	消耗品費	28,976
合計	16,816,697	拠金支出	0
		手数料支出	5,840
		予備費	0
		次年度繰越金	14,421,573
同窓会館準備費	10,000,000	合計	16,816,697